

# 平成23年4月の開業を目指す 救急や人間ドックで医療を充実



## はりま病院が土山駅南に新築移転 安全安心のまちづくりへ町有地を賃貸借

▼問い合わせ 企画グループ ☎079(435)0356

播磨町には病院がなく、安全安心のまちづくりのため病院を誘致したいと考えていました。昨年の住民アンケート調査でも、目指すべきまちのイメージで「安全、安心なまち」がトップ、これから住み続けていくために何があればよいかで「医療機関・福祉施設の充実」が最も多くなりました。

一方、特定医療法人社団仙齡会（せんにい）はりま病院では、施設の老朽化や施設基準を満たすため、移転新築を検討していました。平成19年から播磨町とはりま病院が協議を重ね、このほど土山駅南の町有地の賃貸借による新築移転について、基本的に合意に達しました。

### 【土山駅南の整備は】

平成15年12月に、JR土山駅の橋上化と自由通路が完成しました。そして、平成16年3月には、住民の皆さんの意見を聞いて土山駅南地区土地利用基本計画をまとめました。

その後、財政状況の悪化や、用地確保の問題などもあり駅南地区の整備計画を見直す中で、新たな事業として住民福祉を向上するため、医療機関の誘致を計画に追加しました。

### 【病院との移転協議】

本町においては、臨海部を中心に数多くの企業が操業し、3万4千人強の人口を有しながら、これまで病床数20以上の病院がありませんでした。

安全・安心のまちづくりのために、日本テルペン化学（株）土山工場跡地の公共的な利用という観点から、病院を誘致したいと考えていました。

### 【建設用地の状況】

病院を建設する場所は、土山駅南の町有地約1万3千方メートルの南側部分の約5千500平方メートルで、現在未利用となっています。

このことから、本町と「はりま病院」において協議を進め、着工までに土地鑑定による金額で賃貸借契約を締結することで、基本的に合意に至りました。

### 【医療の連携と強化】

特定医療法人社団仙齡会（せんにい）はりま病院が、加古川市尾上町からJR土山駅南の北野添2丁目に移転します。建設工事は平成22年初旬から23年3月まで、開院は23年4月の予定です。建物は、鉄筋コンクリート造4階建てで、延床面積は約5千200平方メートルです。

### 【医療の連携と強化】

はりま病院は、加古川市加古郡医師会に所属し、診療科目は、内科、外科、整形外科、リウマチ科で病床数は、99床。人間ドックも実施する予定です。また、休日、夜間に重症患者を受け入れる東播磨地域の二次救急医療施設として実績があり、公益性が高いと国税庁長官の承認を受けた特定医療法人です。

### 【医療の連携と強化】

少子高齢化が進む本町においていっそう医療、介護を必要とされる方が増えてくることから予測されます。はりま病院が持つ二次救急を備えた病院機能と、本町の他の医療機関との連携が大きく期待されます。

### 【駅南地区の活用】

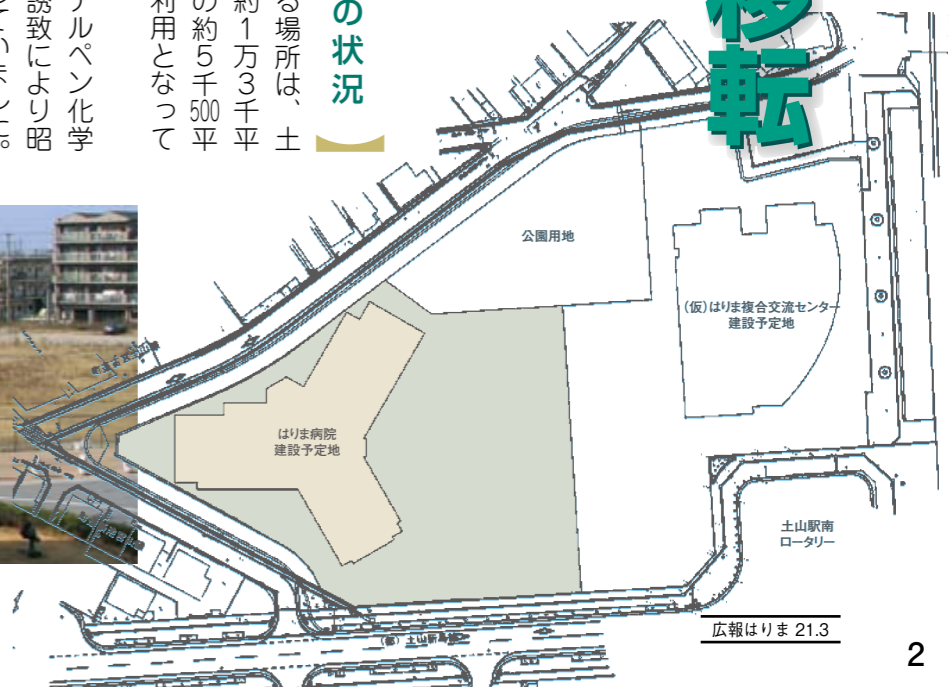
病院用地の北側は（仮）はりま複合交流センターの設計など予算の否決により一部を暫定的に整地し、平成21年1月から地域の軽スポーツなどに利用しています。グラウンドゴルフや地域のイベントにもお気軽にご利用いただけます。



▲スポーツクラブ21はりまが管理しています



▲フェンスに囲まれた土山駅南側の工場跡地



- 仙齡会関連の病院など**
- いなみ野病院
  - はりまクリニック
  - 訪問看護ステーションはりま
  - 尾上在宅介護支援センター
  - はりまクリニック
  - 通所リハビリテーション
  - 太子福祉会みどり園
  - 太子福祉会尾上の郷
  - 太子福祉会ケアハウスあじさい
  - 太子福祉会聖園

一方、仙齡会（せんにい）はりま病院は関連施設として複数の病院や福祉施設があり、それらとの連携も含めて、住民生活の安全・安心に大きく寄与しているものと思います。さらに救急体制の充実により、災害時などには医療救助活動の拠点としての役目も果たしていただきたいと考えています。

駅南地区周辺の道路については、平成20、21年度に整備し、公園も21年度に整備します。